



水のつながり 人のつながり

平成30年度(2018年度) 水のつながりプロジェクト実施報告

主催：大和平野土地改良区・奈良県川上村

協力：奈良県農村振興課

水土里の会（橿原市田中町）

今年度もおこなわれました

大和平野土地改良区の組合員のみなさまからの感謝の気持ちが込められた「おかげ米」が、水源地の村づくりに取組む吉野郡川上村に届けられたのは平成23年。紀伊半島大水害の年でした。その翌年度から毎年度「水のつながりプロジェクト」が続いています。このプロジェクトは、大和平野と水源地域の交流を育み、水でつながった双方の思いを継承しているものです。それぞれの地域の小学生どうしの交流を軸に展開しています。



川上村職員との交流研修も実現

昨年度の終わりに、川上村において水土里の会の方々と交流研修を行いました。村からはプロジェクト担当だけでなく、役場各課や観光施設からも職員が参加しました。あらためて「私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流には、いつもきれいな水を流します」など5項目にわたる『川上宣言』とともに、「吉野川源流—水源地域の森」の保全や吉野川紀の川流域での活動など、具体的な村の取組みを紹介。また水のつながりプロジェクトをふりかえることで、さらに村内での周知をはかる機会となりました。水の届くところと、水の源となるところが、いっしょに研修交流ができたことは、流域連携を進める村にとって大変うれしい一日でした。

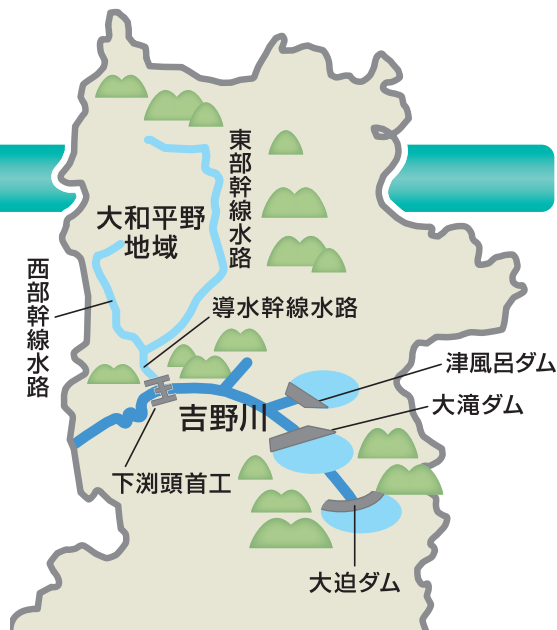


水土里の会のみなさまのおかげで

7年目となった今年も、おいしいお米ができるまでの農家の仕事やご苦労と、それを通じて水の大切さを伝えていただいたのは、橿原市田中町の水土里（みどり）の会のみなさまです。今年は特に台風も多く天候にも悩まされましたが、会のみなさまには万全かつ柔軟に準備をいただいたおかげで、子どもたちに、さまざまな気づきを提供いただけたと思います。本紙中面の行事報告や裏表紙の学校から届いた声をどうぞご覧ください。

吉野川分水（よしのがわぶんすい）

大和平野における水不足の解消を目的に実施されたもので、大迫ダム・津風呂ダム・下淵頭首工・平野内水路等の施設から構成されます。これらの施設により吉野川から大和平野に農業用水として導水されており、大和平野の農業水利の安定化に役立っています。また水道用水としても利用されており、これらの水が「吉野川分水」と呼ばれています。大和平野土地改良区では、導水幹線水路、東西幹線水路等の水路及び分水工の管理を行っています。



平成30年度(2018年度)水のつながりプロジェクト

大和平野と水源地域の子どもたちが、互いにそれぞれの地域を訪ねて、体験や見学を行い、交流することで水でのつながりを実感し、互いに感謝することの気持ちをもって地域への学習へと発展することをめざして今年度のプロジェクトが行われました。

第1回(中止)

田植え体験

川上小学校と、今井小学校が田植え体験を通じた交流を6月に予定していましたが荒天のため中止しました。その代わりに、稲の苗を贈呈し、バケツ稲で栽培してもらうことになりました。

田中町水土里の会の方のご厚意で、田んぼの大切な土を分けてもらいました。大和平野土地改良区からは、稲の育て方を教えてもらいました。予定していた水源地交流水田には、田中町水土里の会のみなさんが代わりに稲を植えてくださいました。



田中町水土里の会のみなさんが代わりに稲を植えてくださいました。



第2回(9月13日)

源流体験

吉野川源流の支流、川上村の音無川で川上小学校・今井小学校の4年生を対象に谷幸三先生(奈良県水生生物研究会会長)の指導で、水生生物の観察と環境学習の青空授業を行いました。その後、森と水の源流館で源流の森の大切さを、学びました。大滝ダムでは、豪雨体験やダムの役割について学習しました。



- 9:30 開会式(あきつの小野公園)
 - ・両校代表挨拶 / ・川上村挨拶 / ・両校交流
- 9:45 水生生物の観察と川の環境学習(指導:谷幸三氏)
- 11:30 昼食
- 12:10 蜻蛉の滝(あきつの小野公園) 発
- 12:20 森と水の源流館見学(今井小学校のみ)
- 13:20 大滝ダム学べる防災ステーション見学
- 14:20 閉会式
 - ・両校代表 感想とお礼
- 14:30 終了(川上小学校は15:00までダム見学)

子どもたちの声

- ・今井小の人から「空気おいしい」と言われ、自然いっぱいの所に住めて、うれしかった。
- ・はじめはきんちょうしたけど、いっしょに水生生物がとれてよかった。

参加いただいた学校

川上村立川上小学校

源流体験……………4年生 2人
田植え・稲刈り体験……5年生 4人



橿原市立今井小学校

源流体験……………4年生 47人
田植え・稲刈り体験……5年生 33人

体験指導：水土里の会の農家のみなさん 観察指導：谷 幸三（環境科学博士）

第3回(10月17日)

稲刈り体験

6月に田植えをした水源地交流水田において、両校の5年生が田中町水土里の会のみなさんの指導でなかよく稲刈り作業を行いました。秋晴れのすばらしい天候の中、約4か月間、みなさんに育てていただいて、穂が垂れた稲を収穫しました。収穫後、ハザ掛けで天日干しにるところまでがんばりました。



- 9:30 開会式
 - ・両校代表挨拶
 - ・大和平野土地改良区挨拶
- 9:45 稲刈り（指導：水土里の会）
 - ・記念撮影
- 11:15 閉会式
 - ・農家のみなさんへお礼
- 11:20 終了

子どもたちの声

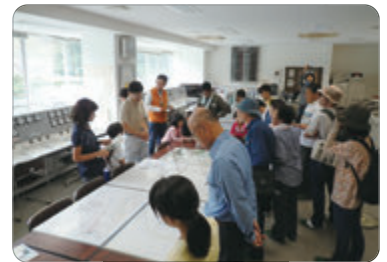
- ・お米ができるまで、こんなに時間がかかるのだなぁと思った。
- ・農家の人たちは、いつもたいへんな思いをして、おいしいお米をつくってくれていることがわかった。

源流トレッキング (8月9日)

吉野川分水の流域より18名の参加者が集まり、大和平野の田んぼの水のふるさと、川上村の大迫ダムや「吉野川源流ー水源地の森」で楽しく環境学習を行いました。吉野川源流部での河川の清掃活動も行いました。参加者から、吉野川源流を守る森守募金が川上村に贈られました。

- 8:20 大和平野土地改良区事務所出発(バス)
- 9:50 森と水の源流館(トイレ休憩) → 10:30 大迫ダム見学
- 13:00 水源地の森トレッキング → 14:10 三之公河原ゴミ拾い
- 15:30 湯盛温泉ホテル杉の湯にて入浴
- 17:30 大和平野土地改良区事務所着・解散

自然環境に興味のある流域の住民を対象に
大迫ダムの見学会と「水源地の森トレッキング」を実施しました。



ありがとうおかげさまで…

今年度の取組みから

～水土里の会の方々におききました～



今年は6月に計画していた田植え体験が、大雨のため残念ながら実施できませんでした。その代わりに、稲の苗と少しだけの土を学校にプレゼントしました。農家にとって土は大切なもので、人に譲るようなことはしないのですが、田植えができなかった子どもたちに、稲の成長に関心を持って見てもらえるよう考えました。そして、もうひとつ今回だけのサプライズとして「新男米」という人気グループ TOKIO が出演するテレビ番組「鉄腕ダッシュ!」から生まれた米の稲を届けました。学校に届けてもらった土地改良区の方からは、子どもたちは大変よるこんで、バケツ稲で育ててくれていると聞きました。



そのあと、今年は本当に暑い夏でした。また大きな台風が何度も訪れた年でした。農家の米づくりも苦労の連続でしたが、学校のバケツ稲の生育も気になりました。

そんな天候で、なかなか大変でしたが、今年も水源的交流水田のお米が実ってくれてホッとしています。また昨年度末、川上村へお邪魔して、いろいろな村の取組みを聞かせてもらったことで、毎年のこのお世話の活動が、意味深く思えた年でもありました。

学校では、バケツ稲もうまく育ちましたか？ 奈良県自慢のお米といえば、もちろん「ヒノヒカリ」です。子どもたちには、このプロジェクトの体験と思い出を心にとどめてもらって、これからもふるさとでできる、おいしいお米を選んで、食べてくれることを願います。



お米が届いた教室から

収穫されたお米が大和平野土地改良区から体験校へと届けられました。



川上村立川上小学校

福本彰校長

4年生の源流体験では、川上村の自然の良さを再認識する良い機会となりました。5年生は、田植え体験はできませんでしたが、バケツ稲の栽培、苦労した稲刈り体験を通じて、米作りの大変さを理解したようです。いつも食べているお米がどんなところで作られているのかを知ることができました。この活動をきっかけに、流域学習や環境学習にも発展させることができました。いただいたお米は給食と家庭科実習で活用させていただきます。



橿原市立今井小学校

吉田昌功校長

子どもたちは、普段の授業でいろんなことを学習していますが、授業だけでは伝わらないこともあります。今回、現地で思いを持って関わっている方々から、実際の話の聞いたり、体験を通したりして、子どもたちは体全体で学ぶことができたと思います。

学級担任からは「子どもたちが、ご飯の大切さを理解できた」「バケツ稲の脱穀の際、こぼれた米粒ひとつも、もったいないと拾っていた」「給食でもごはんを残さなくなった」など成長の姿も聞いています。



事務局後記

6月に予定していた田植え体験の日程がどれも荒天となり、今年度のプロジェクトのゆくえが心配されました。しかし10月には秋晴れの下、両校の児童が稲刈りを体験できました。水土里の会をはじめ、多くの方々に支えていただきましたことを心から感謝申し上げます。このプロジェクトにかかわり、農家というお仕事が、どれ

ほど天候に左右され、そのたびに心配で大変で…その一端を垣間見させていただいています。お米をいただくとき、きれいな水が水源地から届くこと、農家さんのことを思い「おいしいお米をありがとう!」と心で唱えたいと思います。

